

2023年6月28日 公共交通シンポジウム

2050年 どうする！公共交通 ～2050年の日本を支える公共交通のあり方とは～  
宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日は、皆様ご多用の中、このシンポジウムに会場でのご参加とオンラインによるご参加を合わせて、1800名を超える大変多くの皆様にご参加の申し込みをいただいております。誠にありがとうございます。

また、ご多忙の折にもかかわらず、本日のシンポジウムの開催にあたり、来賓のご挨拶をいただきます藤井直樹国土交通事務次官、基調講演を行っていただきます森地茂政策研究大学院大学名誉教授、そして、パネルディスカッションにご登壇いただきます皆様に、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国では、人口減少、少子高齢化などにより、長期的に経済・社会環境が大きく変化することが想定され、このため、公共交通が抱える課題も長期的により多様化、複雑化、そして深刻化することが従来からも論じられてきました。

しかしながら、2020年初からの新型コロナウイルス感染症の流行は、長期的な事象として考えられていた、例えば、テレワークの進展や公共交通利用者の減少とは実際にはどのようなものかということ、我々の目の前に一気にさらけ出しました。従来からの地域公共交通をめぐる諸課題が一層深刻化したのみならず、幹線交通や国際交通の分野においても、このようなイベントリスクへの脆弱性が全世界的に露わになりました。

一方では、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた国際的な動きが加速され、また、中長期的に交通分野に劇的なイノベーションをもたらす新技術の開発は、待ったなしで進みつつあります。

これらは一例ではありますが、バブル崩壊以来のいわゆる「失われた30年」から脱却して、再び希望と活力に満ちた日本を取り戻すために公共交通がどのような貢献をすべきか、といった観点を含め、長期的な課題ではありながら、実は今から必要な手を打っておかなければならない諸課題が山積している状況であります。

一方、我が国の公共交通政策についてみると、交通政策基本法に基づく5年程度の期間をターゲットとした交通政策基本計画は存在するものの、残念ながら、より長期をターゲットとした計画や指針が存在していないのが現状であります。

このため、当研究所では、2021年から、公共交通の各分野に造詣の深い研究所外部の24名の有識者の方々にご参加いただき、「2050年の日本を支える公共交通のあり方検討委員会」及び2つの小委員会を設け、2050年という長期をターゲットとして、日本社会の構造的変化・国際環境の変化や目指すべき社会の姿を想定した上で、日本を支える公共交通のあり方を示し、さらに、その具体化に必要な施策や検討の視点・方向性を示すべく、精力的に検討を進めてまいりました。この検討成果については、去る6月14日に、運輸総合研究所として提言を取りまとめ、その内容を記者会見などを通じて公表したところです。

この提言は、公共交通の各分野における施策や検討の視点・方向性を、できる限り網羅的に取り上げた、いわばたたき台であり、これを世の中に投げかけることにより、財源論も含めた課題の解決方策や優先順位付けについて、社会・国民各層における議論を惹起するための一石を投げようとするものであります。

「2050年 どうする！公共交通～2050年の日本を支える公共交通のあり方とは～」と題した本日のシンポジウムは、先の提言を踏まえて、世の中への議論の投げかけの一環として行うものであります。長期と言っても実は決して遠い先ではない、27年後の2050年に向けて、我が国を支える極めて重要な社会基盤である公共交通について、その「公共財」としての役割を十全に発揮していくためのあり方とはどのようなものか、また、その実現のために今後、関係各層がどのように取り組んでいくべきか、ということについて、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

シンポジウムでは、まず、森地先生から、「コロナ後の変化と2050年の未来に向けた期待」と題して基調講演を行っていただきます。森地先生には、ご多忙の中にもかかわらず、検討委員会の座長として、検討成果のとりまとめに多大なご尽力を頂きましたことに、改めて感謝申し上げます。

次に、提言の内容について、検討委員会等における議論もご紹介しながら、当研究所の「2050年の日本を支える公共交通のあり方検討チーム」のメンバーである海谷主席研究員ほか8名の研究員から報告を行います。

その後、検討委員会の地域間交通小委員会の座長をお務めいただいた東京大学大学院教授の加藤浩徳先生にコーディネーターをしていただき、検討委員会の地域内交通小委員会の座長をお務めいただいた東京大学大学院教授の福田大輔先生、小委員会にご参画いただいた室蘭工業大学大学院工学研究科教授の有村幹治先生及び呉工業高等専門学校教授の神田佑亮先生にご登壇いただき、また、東北大学災害科学国際研究所教授の奥村誠先生にはオンラインでご参加いただいて、パネルディスカッションと質疑応答を行います。

本日のシンポジウムが、ご参加いただいております多くの皆様にとりまして、新たな気づきや、これからの取組への有益な示唆に富んだものとなり、今後の国民的議論の喚起・活性化につながりますことを祈念しております。

当研究所としては、この提言に示された諸課題について、今後、より深掘りした研究調査を行い、適宜世の中の役に立つ政策提言として発表していくべく不断の努力を行ってまいりますので、引き続き関係各位のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございます。

(以上)